環 境 経 営 レ ポ ー ト

（改訂１）

「職場から地域へ　個人から家族へ」

～2017 年度 Eco 活動の取り組み～

対象期間：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社　横浜地区

発行日 2018 年 10 月 18 日

≪ 目 次 ≫

1. 社長メッセージ..... 1
2. 環境経営方針..... 2
3. EA21 活動 3
3.1 環境活動の経緯..... 3
3.2 環境活動推進体制..... 4
3.3 EA21 活動の紹介 5
4. 会社概要..... 9
4.1 事業概要..... 10
5. 環境活動の取組..... 11
5.1 環境活動の目標及び実績・評価..... 11
5.2 生物多様性に関する取組..... 23
5.3 昨年度評価及び次年度以降の取組..... 24
6. 環境関連法規制の遵守状況及び違反、訴訟等の有無..... 25
7. 代表者による全体評価と見直し結果..... 26

1. 社長メッセージ

～多彩な技術で持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けて～

当社は、三菱重工業(MHI)及び三菱日立パワーシステムズ（MHPS)グループのエンジニアリング会社で、その源流は1961年10月に遡り、50年を超える歴史のなかで多数のエンジニアを輩出し、日本国内に限らず全世界にMHI/MHPS製品を送り出し、社会に貢献してまいりました。

当社が関わる製品は、火力・水力・風力・原子力発電プラント、排煙脱硫・脱硝プラント、鉄構製品、環境プラント、航空・宇宙関連機器、ITシステムに至るまで多岐にわたっており、得意とする設計ファンクションは、土木・建築、機器・機械、計装・電気、配置・配管、制御装置、コンピュータ解析など多種あり、将に「総合エンジニアリング会社」と自負しております。

環境活動は、経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、企業としての社会的責務を自覚し、事業活動のあらゆる面で環境への負荷低減に努め、地球規模での環境保全と持続的発展が可能な社会形成に貢献出来るよう活動に取り組んでおります。

当社横浜地区では、地球温暖化対策のために豊かな低炭素社会づくりに向けた知識や技術をみんなで楽しく共有し配信する気候変動キャンペーン［Fun to Share］に賛同し「地球温暖化防止への貢献」、「地球環境保全への貢献」を軸に積極的に取り組んでおります。

その一環として当社では「社内エコポイント制度」を２０１０年６月にスタートさせ、本年で９年目を迎えました。社員の環境活動への意識向上を牽引するツールとして活用しております。

環境活動をより楽しく、より長く継続していくかを重要と考え「社内エコポイント制度」を通じて社員の自発的な環境意識向上を図り、環境活動の発展に寄与していく所存です。

また、本業である環境配慮型設計を重点に置き、更に環境教育に力を注ぎ取り組んで行きたいと考えております。エネルギー使用のあり方について全員で見直すとともに、省エネルギー活動を効果的に実践し、エネルギー使用量の削減を図ってまいります。

エネルギー・環境・インフラ等の多彩な技術でお客さまの様々なニーズにお応えすると共に、世界中の人々が願う地域社会と地球環境づくりに、技術者としての倫理を旨として貢献してまいります。

MHPSエンジニアリング株式会社
取締役社長　　北　良之

2. 環境経営方針

【基本方針】

ＭＨＰＳエンジニアリング㈱は、環境保全を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、企業としての社会的責務を自覚し、事業活動のあらゆる面で環境への負荷低減に努め、地球規模での環境保全と持続的発展が可能な社会形成に貢献する。
この基本方針達成のため、次の行動指針に基づき活動する。

【行動指針】

(1) 環境に配慮した事業活動の継続的推進のために、環境マネジメントシステムを軸に環境目的・目標を設定し達成に向けて継続的改善を図る。
(2) 環境に関係する法規制、及びその他の要求事項を遵守して事業活動を行う。
(3) 省資源・省エネルギー・排出物の低減・汚染の予防に配慮した設計を実施し、環境負荷を軽減することのできる製品の供給を図る。
(4) 社員及びパートナー会社社員に環境方針を理解させ、環境意識を向上させるために環境教育、社内広報活動等を推進する。
(5) この環境方針は、内外に公表するとともに一般の人が入手可能とする。

この方針は内外に公表する。

2018年1月1日
ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社
取締役社長　　北　良之

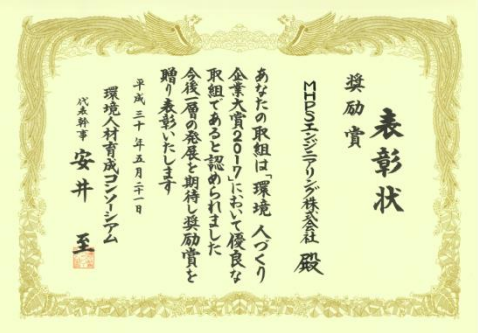
■エコアクション21　認証・登録

認証登録事業所	横浜事業部及び総務部
認証・登録の対象活動範囲	各種製品（原動機、鉄構、環境装置、システム、その他）の設計・調達及び据付建設工事
認証登録番号	0000516
認証登録日	2005 年 10 月 31 日
更新登録予定日	2019 年 10 月 31 日

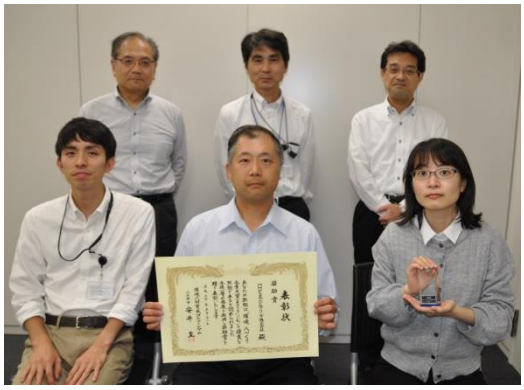
3. EA21 活動

3.1 環境活動の経緯

1961 年 10 月　菱日重エンジニアリング㈱を設立
1972 年 10 月　菱日エンジニアリング㈱に社名改称
2004 年 11 月　エコアクション 21 社内事務局を設置
2005 年 10 月　エコアクション 21 認証登録（認証・登録番号　0000516）
2009 年 03 月　環境省・環境コミュニケーション大賞　環境レポート部門　優秀賞を受賞
2009 年 04 月　横浜型地域貢献企業認定で最上位認定取得
2009 年 04 月　横浜市 150 万本植樹行動市長表彰　受賞
2010 年 06 月　社内エコポイント活動開始
2010 年 07 月　「チャレンジ 25」に登録
2010 年 10 月　環境活動促進システム「ＥｃｏＰＳ」運用開始
　　環境活動促進システム「ＥｃｏＰＳ」特許出願　（特許第５３３１０６３号）
2011 年 06 月　環境省「マイボトル・マイカップキャンペーン」に登録
2011 年 07 月　横浜マリンタワーエコキャップ活動展示に協賛
2012 年 03 月　平成 23 年度かながわ地球環境賞受賞
2012 年 04 月　ＭＨＩプラントエンジニアリング㈱に社名変更
2014 年 02 月　三菱日立パワーシステムズエンジニアリング㈱に社名変更
2014 年 08 月　環境省「Fun to Share」に登録
2015 年 10 月　MHPS エンジニアリング㈱に社名変更
　　エコアクション 21 10 周年記念式典に出席
2016 年　3 月　WWFJapan 法人会員登録
2016 年 12 月　低炭素杯 2017　優良賞受賞
2018 年　3 月　環境人づくり企業大賞　奨励賞受賞


表彰状
奨励賞
MHPSエンジニアリング株式会社 殿
あなたの取組は「環境人づくり企業大賞2017」において優良な取組であると認められました
今後一層の発展を期待し奨励賞を贈り表彰いたします
平成三十年五月二十一日
環境人材育成コンソーシアム
代表幹事 安井 至

環境人づくり企業大賞　奨励賞



社内報に掲載された時の事務局集合写真

環境人づくり企業大賞　表彰式典にて
（左から安井代表理事、郡司副社長）

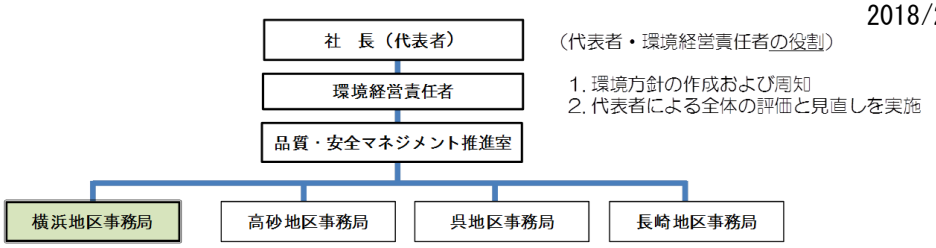
3.2 環境活動推進体制

サプライチェーンの構築を目指して、環境経営体制の強化を図っています。

２０１８年度は、「横浜事業部及び総務部」から「横浜地区」への認証範囲拡大。

２０１９年度からは、エコアクション２１の認証範囲を全社規模に拡大します。

2018/2/1



（代表者・環境経営責任者の役割）

1. 環境方針の作成および周知
2. 代表者による全体の評価と見直しを実施

地　区	横浜地区				高砂地区	呉地区	長崎地区	日立地区
	本牧地区	MM地区						
環境ＩＳＯ、ＥＡ21認証	エコアクション21				ISO14001			
サイト	本牧	日石横浜	みなとみらい	YBA	高砂	呉	長崎	日立
経営統括部	○							
空間設計統括部	○				○		○	
計装電気技術統括部	○							
横浜統括部	○	○	○	○				
呉統括室	○					○		
タービン・ポンプ技術統括部	○		○		○		○	○
高砂事業部					○			○
長崎事業部							○	

横浜地区事務局

地区責任者
鈴木部長
（横環プ部）
（YBA）

MM地区推進委員
田籠次長
（横プ機部）
（Mビル）

本牧地区推進委員
エコポイントシステム窓口
杉林主席技師
（横シス部）
（本牧）

経統部他推進委員
横溝主席技師
（経統部）
（本牧）

（環境管理責任者の役割）
1. EA21 事務局長を任命
2. 環境活動の取り組み結果を代表者へ報告

環境レポート及び審査対応

編集委員
石橋社員
（横プ設部）
（本牧）

編集委員
山口社員
（横シス部）
（Mビル）

編集委員
藤井社員
（横環プ部）
（YBA）

審査窓口
高柳Ｇ長
（横品マＧ）
（本牧）

（EA21事務局の役割）
1. 環境活動企画及び取りまとめ
2. 環境目標・環境活動計画書作成及び各部門の推進担当への周知
3. 環境関連法規等の取り纏め
4. 環境活動の実績集計
5. 環境活動レポートの作成及び公開
6. 外部審査及び内部審査対応
7. EA21推進担当者に対する教育訓練の実施

各部門の責任者：各部長　（部門責任者）：自部門のEA21推進担当者の選任

各部門のEA21推進担当

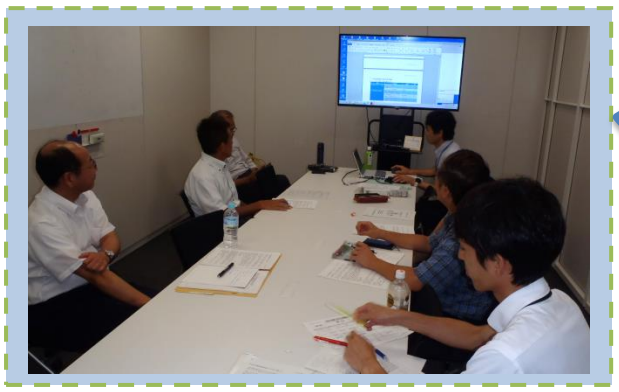
担当部門	担当部門	担当部門	担当部門	担当部門	担当部門	担当部門	担当部門
経統部・空統部 呉統部(空設1G)	横シス部	横鉄設部	横鉄設部	横環プ部	横プ機部・計統部	タポ統部 プ機部含む	タポ統部
横溝主席技師 （経統部） （本牧）	蒲谷主席技師 （横シス部） （本牧）	竹部主任 （横鉄設部） （本牧）	横山主席技師 （横鉄設部） （日石ビル）	菅原主席技師 （横環プ部） （ＹＢＡ）	関野社員 （プ機部） （本牧）	原主席 （タポ統部） （Mビル）	塩崎主任 （タポ統部） （本牧）

（役割）　自部門における

1. 環境方針の周知
2. 環境活動計画書作成と周知
3. 環境活動の推進
4. 従業員に対する教育訓練の実施
5. 環境活動実績集計及びＥＡ21事務局への報告
6. 外部審査及び内部審査の自部門の対応

3.3 EA21 活動の紹介

3.3.1 事務局会議の様子



環境活動についての活発な意見交換

年間を通して毎月定期的に開催しています。
＜主な会議内容＞
・環境活動の企画・部門周知
・活動計画表の策定
・審査対応
・エコポイント制度の改善検討

3.3.2 外部審査の様子

各部門においてサンプリング
（職場のサンプリング風景）

＜審査人の評価コメント＞
[評価できる点]
エコポイント制度は多くの従業員にインセンティブを与え、環境への取組みを助長する仕組みであり、改良しながら推進していることは評価できます。
[推奨事項]
環境目標のタイトル表現は述語を追加し、分かりやすい目標にすることを推奨します。
例：電気　→　電気使用量の削減

3.3.3 内部監査のヒアリング

部門責任者と事務局担当者へ（審査内容説明ほか）

＜活動内容＞
各部門推進担当者にて下記を準備し、質疑応答を行いながら部門状況を確認します。
・内部監査チェックリスト
・2017 年度環境活動計画表
・環境活動評価書
・環境関連法規チェックリスト
是正事項に対する対応策を纏め、環境改善に取り組んでいます。

3.3.4 環境教育

①部門推進担当者向け教育

（部門推進担当者向け教育の風景）

〈研修内容〉

- 「ＥＡ21」の取組概要
- 社内環境活動の経緯
- 部門推進担当者の役割
- COP21 パリ協定や低炭素化に向けた世界情勢紹介

環境活動はすべての部門において、継続的に取り組むために開催しています。

（部門推進担当者向け資料）

14. 社内エコポイント制度

社内エコポイント制度は、簡易な当社独自の環境活動促進システムであり、活動の視える化という点からの成果は大きい。
①環境活動（地域支援）内容毎に所定の実施ポイントを設定する。
②システムに掲載。活動販促。
③実施者は、該当活動にチェックを行う
④年間活動として各種集計を実施。次期活動対策に反映する。
⑤総活動について、その1/2を寄付。1/2を希望するポイントで個人に還元する。昨年度より還元ポイントが4種類（楽天Edy/MobileSUICA/AMAZON/nanaco）から選択可能。
寄付先は、昨年度45万円がWWF。15万円が神奈川県、横浜市の環境基金に実施した。
また、個人で未取得のポイントは、纏めてUNICEF、UNHCR、MANGLOBALに寄付している。

16. 推進担当者の担当内容まとめ

- 年間計画表の作成およびフォロー
  (重点時期は計画時、外部監査前、内部審査前と年度末)
- EA21関連内容についての周知(メールや掲示など)
  クールビズ、ウォームビズ、エコポイント活動、eco検定試験推進
  外部,内部審査対応、省エネパト、エコキャップ活動…等
- 環境教育…新入社員、パートナー社員など新しく入られた方への
  環境教育(資料は環境活動レポートと活動計画表など)要エビデンス
  eco検定取得促進
- エコポイント活動推進…申請率60%目標と各部のフォロー
- 省エネ活動推進および省エネ(要エビデンス、改善事項の是正処置)
- 環境活動レポート作成時の記事、特に各部の環境配慮型設計の
  取組について(事務局から依頼しますのでご協力お願います)
- 紙購入量、廃棄物量(各数値のフォローと報告)

1. ガイドライン全般についての変更点

要求事項等については前半、認証・登録制度に関する事項は後半に纏めて掲載するように編集を変更しています。

2009年版ガイドライン	2017年版ガイドライン
序章 EA21の改訂にあたって	はじめに
第1章 EA21ガイドライン2009年版の概要	第1章 企業価値向上ツール「エコアクション21」
第2章 EA21認証・登録制度の概要	第2章 環境経営システム
第3章 環境経営システム	第3章 環境情報を用いたコミュニケーション
第4章 環境活動レポート	第4章 環境への負荷の自己チェックの手引き
第5章 環境への負荷の自己チェックの手引き	環境への負荷の自己チェックシート
第6章 環境への取組の自己チェックの手引き	第5章 環境への取組の自己チェックの手引き
第7章 環境への負荷の自己チェックシート	環境への取組の自己チェックシート
第8章 環境への取組の自己チェックリスト	第6章 エコアクション21認証・登録制度：運用のしくみ
参考1 主な環境関連法規	
参考2 用語の説明	参考1：エコアクション21の歴史
	参考2：エコアクション21の政策的位置づけ
	参考3：2009年度版エコアクション21ガイドラインとの比較
	参考4：用語の説明及び各用語に係る注釈
	主な環境関連法規
	環境経営レポートの作成・活用マニュアル

Web掲載に変更

「横浜事業部＆総務部」の2017年度 外部コミュニケーションの成果

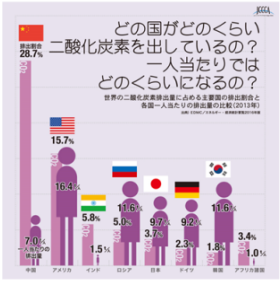
昨年度は、低炭素杯に初めて応募して、結果、優良賞を受賞しました。最終選考には残れませんでしたが、75団体／応募951団体からの選出です。

また、環境報告書／CSR報告書／環境レポートの完成度を審査する「環境コミュニケーション大賞」という賞に毎年応募していますが、昨年度は入賞できませんでした。下記講評をいただいています。

「環境活動レポートの内容が非常にわかりやすく整理されており、図表の使用は読者の理解度の向上につながるものとなっていました。特に、環境活動の見える化を目的とした、独自の社内エコポイント制度や環境配慮型設計は、革新的な取組みとして同業他社の活動のヒントになると思いました」

（低炭素化の世界情勢資料例）

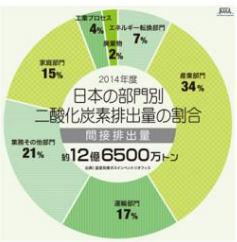
5. 世界の二酸化炭素排出量に占める主要国の排出割合と各国の一人当たりの排出量の比較(2013年)



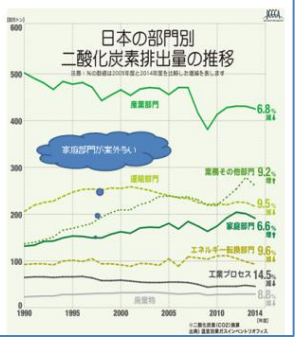
国名	国別排出量比＊	一人当たり排出量＊
中国	28.7	7.0
アメリカ	15.7	16.4
インド	5.8	1.5
ロシア	5.0	11.6
日本	3.7	9.7
ドイツ	2.3	9.2
韓国	1.8	11.6
アフリカ合計	3.4	0.98

出典）EDMC/エネルギー・経済統計要覧2016年版

6. 日本の部門別二酸化炭素排出量

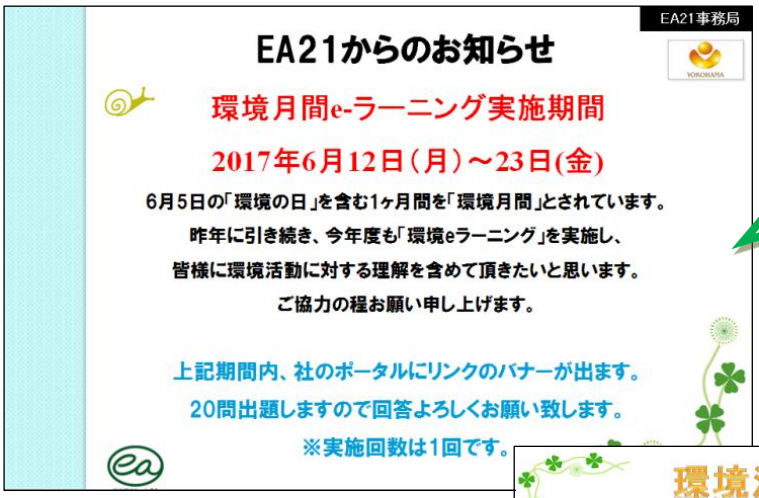


出典）温室効果ガスインベントリオフィス



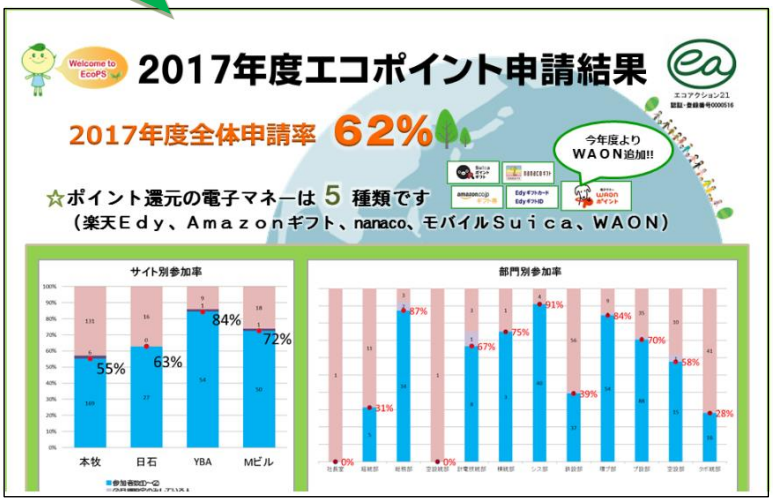
②社内ホームページ(横浜地区版)における環境活動報告

社内では「すぴいど」という社内向けのホームページがあり、社内行事や予定、各部門の状況などを紹介しています。その中の１つに環境活動を紹介するページがあり、環境活動のイベント連絡や実施報告などを掲載しています。



毎朝パソコンを立上げるとデスクトップに自動的に表示されます。

最新情報を届ける為に定期的に更新することを心がけています。



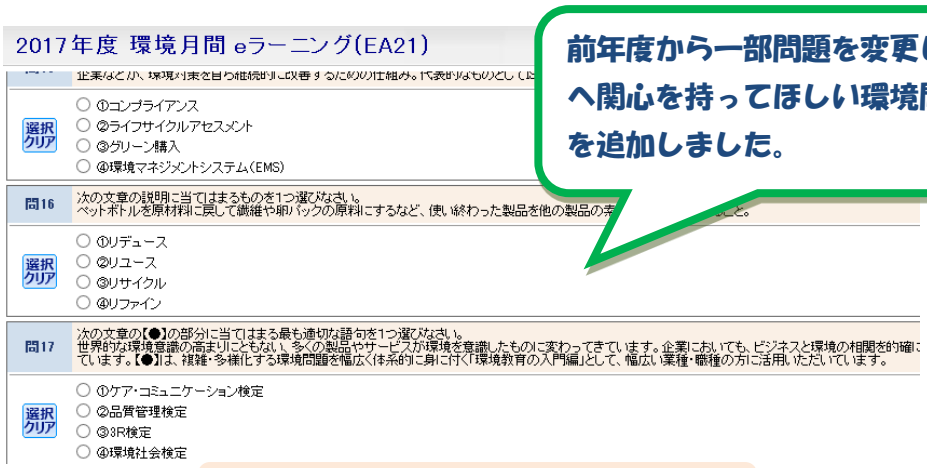
(環境活動紹介画面のイメージ)

③ｅラーニング教育実施

「ｅラーニング」とは、インターネットを利用した学習形態のことであり、社内では、安全教育、情報セキュリティ教育などで利用しています。

環境月間である６月にｅラーニングを利用した環境教育を導入し、eco 検定や EA21 についての問題を事務局で作成し、全社員へテストを実施してもらいました。

実施率は、99%でほぼ全員が実施した結果となりました。



前年度から一部問題を変更し、社員へ関心を持ってほしい環境問題関連を追加しました。

（ｅラーニング画面のイメージ）

3.3.5 「環境人づくり企業大賞　2017」　奨励賞受賞

2018 年 5 月 21 日環境省にて「環境人づくり企業大賞 2017　奨励賞受賞」に出席しました。本受賞を機に今後も地球環境と調和した持続可能な社会の実現に向け、自ら進んで行動する人材を育成することで企業価値を高められるよう貢献して行きたいと思います。

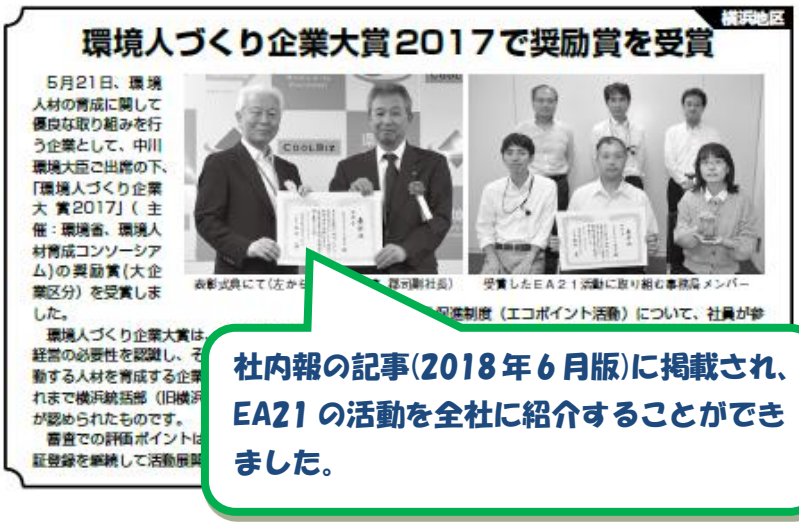
＜審査での評価ポイント＞

① エコアクション２１の認証登録を継続して活動展開している。

② 独自の環境活動促進制度（エコポイント活動）は、社員が参加しやすいよう、よく配慮され、継続的に内容の改善が図れている。

③ 環境ｅラーニングの実施･eco 検定の取得支援等、多くの社員が教育を受ける機会がある。

事務局メンバーと郡司副社長にて受賞式に参加



社内報の記事(2018年６月版)に掲載され、EA21 の活動を全社に紹介することができました。

4. 会社概要

ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社は、『優れた技術・製品によって社会に貢献する』という三菱日立パワーシステムズグループの企業理念のもと、火力・水力・風力・原子力発電プラント、排煙脱硫・脱硝プラント、鉄構製品、環境プラント、航空・宇宙関連機器、IT システムといった各製品の設計・エンジニアリング・現地工事・アフターサービスを提供する総合エンジニアリング会社です。

（2018 年 4 月 1 日）

事業名称		ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社　横浜地区 本牧地区・みなとみらい地区（M ビル・YBA ビル・日石ビル）	
代表者 （環境経営責任者）		取締役社長　北　良之 （副社長執行役員　郡司　登　）	
環境管理責任者		環境管理責任者　鈴木慎悟	
所在地	横浜地区	本社	神奈川県横浜市中区錦町 12 番地
		みなとみらい	神奈川県横浜市西区みなとみらい 3 丁目 3 番 1 号
		ＹＢＡ	神奈川県横浜市西区みなとみらい 4 丁目 4 番 2 号
		日石横浜	神奈川県横浜市中区桜木町 1 丁目 1 番 8 号
	高砂地区	高砂	兵庫県高砂市荒井町新浜２丁目８番 19 号
	長崎地区	長崎	長崎県長崎市飽の浦町 1 番 1 号
	呉地区	呉	広島県呉市宝町 5 番 3 号
	日立地区	日立	茨城県日立市幸町 3 丁目 1 番 1 号
社員数		約 1,627 名　（横浜地区：　約 469 名）	
年間売上高		約 214 億円　（横浜地区：　約 55 億円）　2017 年度実績	
工事件数		（横浜地区：　18 件）【建業法対象工事】	
延べ床面積		（横浜地区：3,933 ㎡）	
仕事の内容		原動機、環境装置、鉄構製品などの総合エンジニアリング	

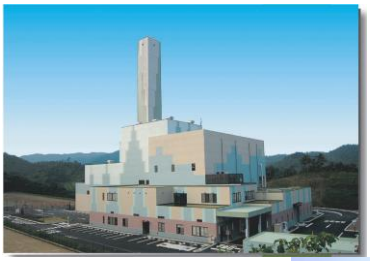
4.1 事業概要

【発電プラント】
広大な敷地にある発電プラントの機器やプラントに至るまで当社の技術が活かされております。
・ボイラ
ボイラ及び付帯設備の基本計画・見積から設計･アフターサービスまでを行っております。
・蒸気タービン
蒸気タービン本体の開発・生産設計や制御・潤滑油装置、付帯配管などタービン廻りの制御・艤装関係の生産設計を行っております。

HRSGボイラ

大型石炭火力用蒸気タービン

【環境プラント】
都市ごみ焼却施設、産廃廃棄物処理施設、汚泥焼却施設及びし尿処理施設の新設工事・アフターサービス・延命化工事の計画・引合・取り纏め・主機詳細設計まで多岐に亘って対応しております。



都市ごみ焼却施設

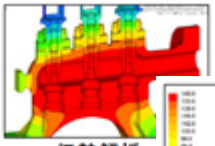
産廃廃棄物処理施設

【鉄構製品】
冷却塔は、熱交換器や回転機本体及び潤滑油の冷却に使用されており、プラントの熱効率に影響する重要な機器の設計に関わっております。

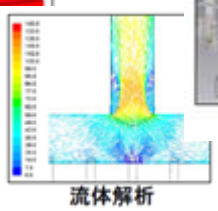
冷却塔

橋梁

【システム・解析計測】
CAE など最新の技術を用いた各種製品の開発を行っております。ICT 技術で設計、保守の効率化を推進しております。



伝熱解析



流体解析

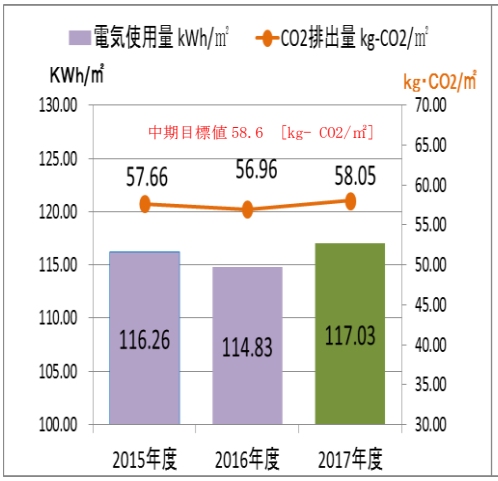
点群計測

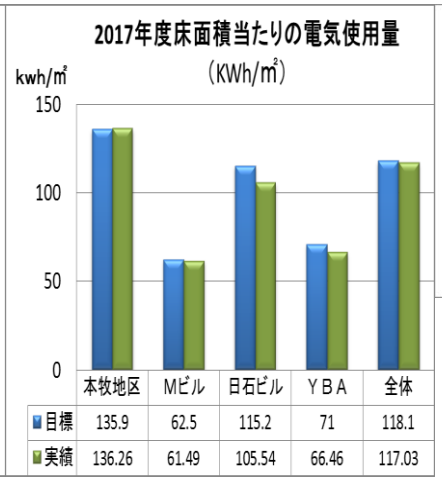
5. 環境活動の取組

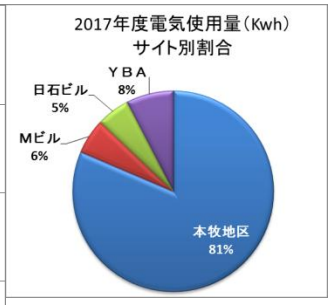
5.1 環境活動の目標及び実績・評価

5.1.1 二酸化炭素排出量

目　標	結　果
床面積当たりの炭酸ガス排出量は、サイト別に目標設定とした。(2017 年度より日石ビル・ＹＢＡ地区も含める) 中期目標は 2019 年度までの維持活動です。 電気使用量　118.1 [kWh/㎡・年以下] 二酸化炭素排出量　232.2 [kg- CO_2] 58.6 [kg- CO_2/㎡]	電気使用量　117.03 [kWh/㎡・年] 二酸化炭素排出量　228.31 [kg- CO_2] 58.05 [kg- CO_2/㎡] 目標達成！







CO2 排出係数は、東京電力の 2015 年度排出係数　0.496 kg-Co_2/kwh を使用する。

＜主な活動・取組内容＞

・電気をこまめに消す、電灯の間引き
・離席時及びタイマー設定で PC モニター電源 OFF
・昼休みの消灯徹底、定時後の一斉消灯
・夏季・冬季の省エネパトロール実施・フォロー

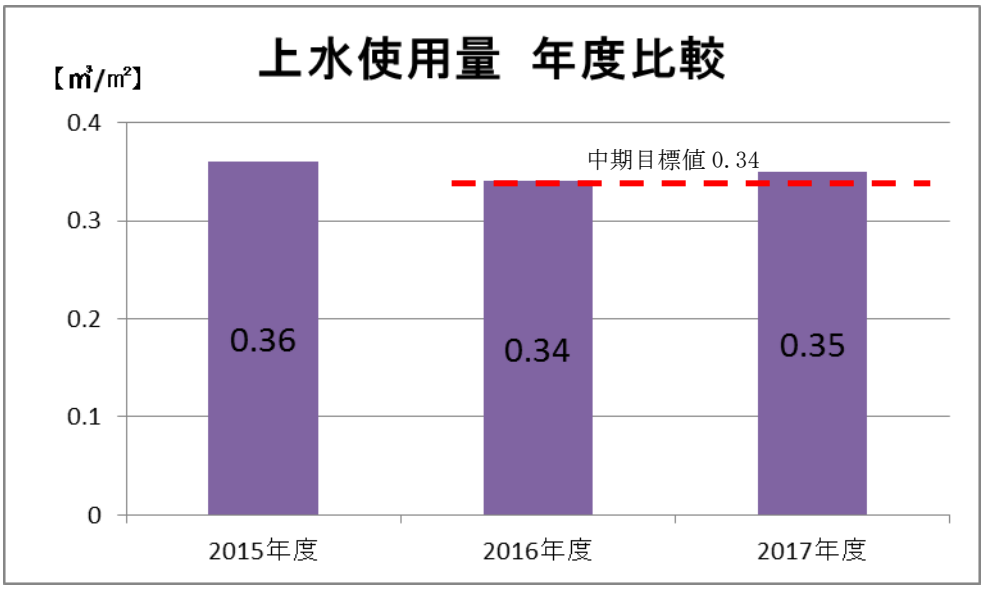
＜評価＞

2017 年度より、YBA 地区・日石ビル地区を加えサイト別に目標設定を行った。全体では目標値以下となっており、評価出来る。推進担当者への教育実施により、推進担当者から部内社員へ拡がり、活動が浸透しているものと思われる。また省エネパトロールでの巡回・フォローも効いていると考える。

今後も推進担当者教育及び省エネパトロールを実施し、すぴいど(社内ホームページ)や内部監査を利用して啓発を行っていきたい。

5.1.2 上水使用量

目　標	結　果
床面積当たりの水使用量を 2016 年度の実績値以下とする。中期目標は 2019 年度までの維持活動です。 **2016 年度実績：0.34 ［㎥/㎡］以下**	上水使用量結果　**0.35 ［㎥/㎡］** **目標未達成**



＜主な活動・取組内容＞

・日頃の節水意識、「節水」の表示をする

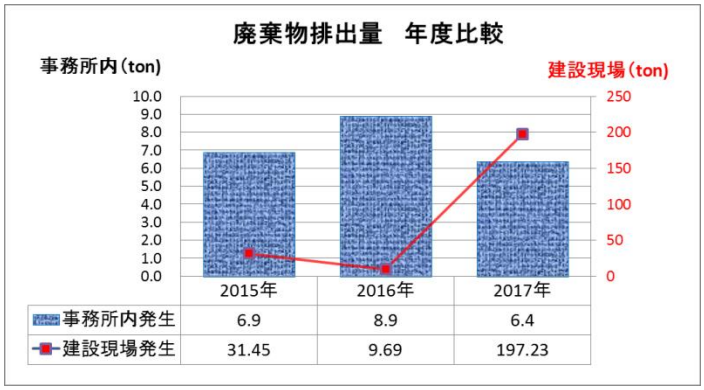
・マイボトルの推進

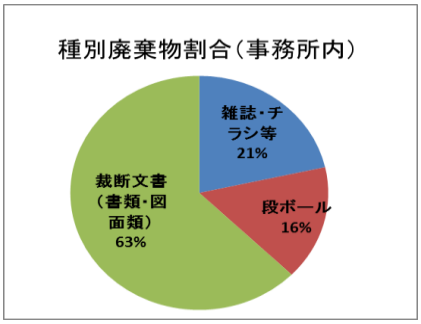
＜評価＞

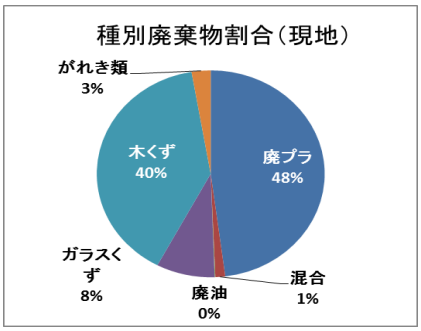
目標に対しては、僅かに超過した結果となったが、社内の節水活動は定着しており、維持活動としては評価出来ていると考える。水は人間が生きるためには最も大切な要素であり、衣・食・住の全てに関わる水を無理なく節水するために、「切り詰める」ではなく、「無駄を無くす」の心がけの節水活動を、社員から家族への輪を広げられるよう、社内向けのホームページ（横浜地区版）で、節水チャレンジの呼び掛けをして行きたい。

5.1.3 廃棄物排出量

目　標	結　果
廃棄物排出量は、2016 年度の実績値以下とする。中期目標は 2019 年度までの維持活動です。 **2016 年度の実績：8.9 [ton]以下**	廃棄物結果　**6.4 [ton]** **目標達成！**







補足：事務所内発生の廃棄物（古紙・紙ごみ・段ボール・新聞）は、本牧地区は構内で有価物として回収し、リサイクルされている。他地区は、ビル内で回収し有価物として回収。建設現場発生分については,冷却塔の現地工事により発生した排出量を示す。（マニュフェストで確認済み）

＜主な活動・取組内容＞

・両面印刷または２アップ印刷（用紙 1 枚に 2 ページを印刷）使用
・裏紙活用（部門内でのみ共有する資料）
・プロジェクター、会議モニター利用による紙の会議資料削減
・印刷前確認で間違い印刷防止

＜評価＞

プロジェクターを使用したり会議用モニターを運用するなどレスペーパーを図り、各部での廃棄物削減が進み排出量が削減した。

2 アップ印刷は、「事前に仕上がりが確認できない」、「裏紙の利用は印刷物によっては出来ず、印刷設定の切り替えが面倒」などと言った声もありますが、紙資源の節約の理解に継続的に努めて行きたいと考えます。

また、紙以外の廃棄物もマイカップ、マイボトル、マイ箸活動を拡大させ排出量削減に貢献していきたい。

5.1.4 グリーン調達

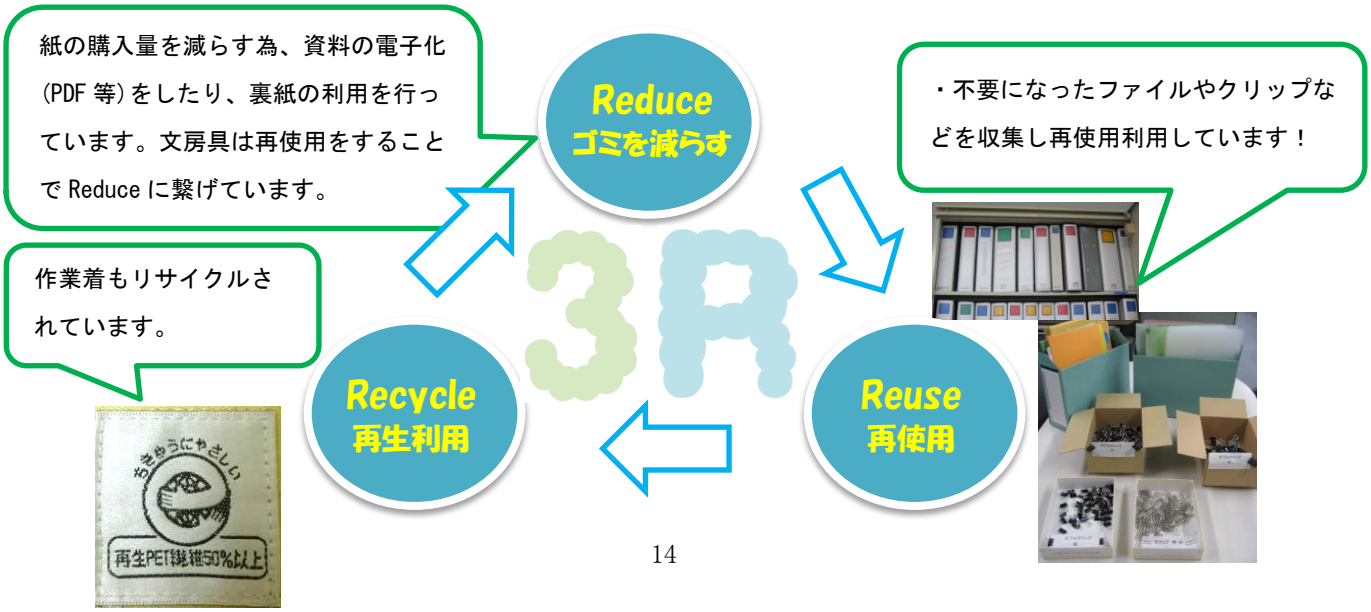
【環境対応商品の購入の実施】

① オフィス用品の調達は、環境３ラベル（グリーン購入法適合商品、GPN エコ商品ねっと掲載商品、エコマーク商品）に加え、環境に配慮した商品に対し、環境情報が表示されている所内のオフィス購入システム（J-POINT）を使用し、事務用品等における環境対応商品の購入を促進しています。

ＧＰＮ：グリーン購入ネットワーク、　ＦＳＣ：森林管理協議会、　ＰＥＦＣ：森林管理認証
ＥＣＦパルプ：塩素を使わず二酸化塩素などを使用して漂白したパルプ

② ３Ｒの取組み

３Ｒ（Reduce、Reuse、Recycle）に基づき、社内で活動しています。



5.1.5 環境活動（エコポイント活動）

＜社内エコポイント制度について＞

当社横浜地区では、環境省の EA21 を取得して規準に沿って活動を行っています。その中で環境活動のマンネリ化、評価の曖昧さを鑑み、2010 年 6 月より活動の「視える化」を目的に「社内エコポイント制度」を発足させました。

毎年度、環境・地域貢献に関する活動を事務局でポイント化して公示し、社員は自己申告により該当活動を申告、１年間このポイントを積算し、この１／２を寄付に、１／２を個人に還元(電子マネー)して次年度の活動に役立てています。

また、社内エコポイント制度をより広める為、2010 年 10 月より「環境活動促進システム（Eco Promotion System）」を導入し、社員の環境活動の促進を図っています。

＜2017 年度の取組について＞

昨年度（2016 年度）は、申請ポイントが大幅に目標超過したが、一方、申請人数は 62%に留まっていることから、現状の環境活動項目のポイント数の付与に課題があることが見える化となった。その為、2017 年度ではポイントのシミュレーションを行い、活動項目とポイント付与の見直しを行いました。

ポイントの変更については、毎年発信しているエコポイント対象活動一覧表にて判断しやすいように公開を行いました。

① 環境配慮型設計（製品ごとの取組事例紹介）

発電プラント

1. 概　要

発電プラント製品においては、主にボイラ・タービン等の関連機器の開発や設計に取り組んでおります。設計業務を通して環境配慮を実施し、業務の一つ一つの進捗により、環境改善に繋げています。

また、既存設備の有効活用を図るメンテナンス部品の供給や省エネルギー化等に係わる設計を行い、環境負荷低減に取組んでいます。

2. 目標と結果、評価

2017 年度はプラント製品設計業務を通しての環境配慮設計を以下の 2 件について実施しました。

活動項目	目　標	結　果	判　定
・ボイラ：燃焼方式の改善 ・風車：トラブルの早期解決	各 1 件以上	各 1 件 （計 2 件）	○

3. 提案内容一例の紹介

・微粉炭焚ボイラ燃焼方式の改善による NOx（窒素酸化物）排出の低減

・風力発電装置の稼働率向上による CO2 排出の低減

ボイラプラント

風車

鉄構製品

1. 概　要

鉄構製品の環境配慮型設計は、橋梁製品による電炉材推奨を設計段階でお客様へ提案し、環境負荷を削減する取組を行っております。スクラップを溶融して製作する電炉材は、大量の電力消費をもってしても、同じ生産量であるならば、温暖化ガス排出量の観点で、高炉材より少なくなります。

また、機械式立体駐車場関係では、高効率モータ等の採用による省電力設計と、長寿命化による資源の有効活用と省エネルギーに向けた取組を行っています。

2. 目標と結果、評価

2017 年度は、以下の 2 件（橋梁製品関係と機械式立体駐車場関係で 1 件ずつ）の活動項目を掲げて活動し、各々目標を達成することができました。

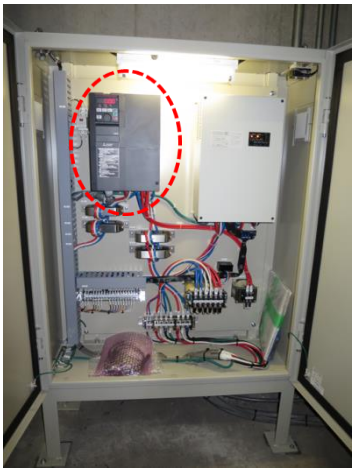
活動項目	目　標	結　果	判　定
・高炉材から電炉材を使用し、温暖化ガス排出の削減に繋げる	1 件以上	1 件	○
・機械式立体駐車場の高効率、省エネ製品の採用に取組み、省エネルギーに繋げる	1 件以上	6 件	○

3. 提案内容一例の紹介

・橋梁製品の電炉材推奨による温暖化ガス排出削減

・機械式立体駐車場昇降装置への高効率モータ及びインバータ採用による省エネルギー化

高効率モータの採用



インバータの採用

環境プラント

1. 概　要

環境プラントの環境配慮型設計は、ごみ焼却施設、し尿処理施設の長寿命化工事の基本設計段階で、資源の有効利用かつ CO_2 削減の検討を行い、お客様のニーズに応える CO_2 削減メニューを提案する取組を行っています。

2. 目標と結果、評価

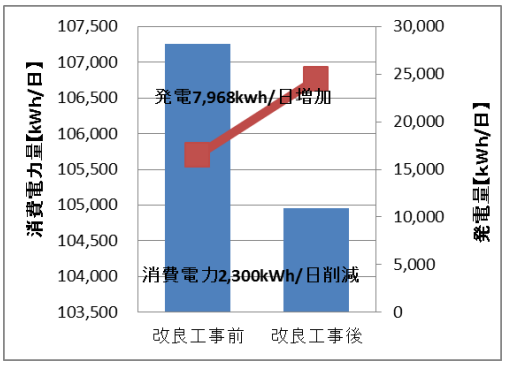
2017 年度は、以下の活動項目を掲げて活動し、提案メニュー4 件作成し、採用され、CO_2 削減に貢献出来たものと考えます。

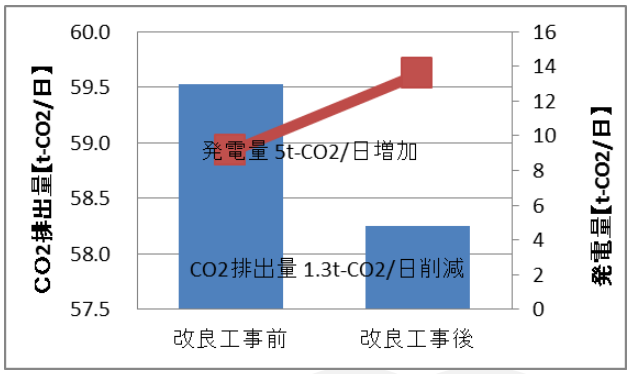
活動項目	目　標	結　果	判　定
ごみ焼却施設、し尿処理施設の長寿命化計画設計支援 ＣＯ$_2$排出削減提案	提案件数 4 件	4 件	○

3. 提案内容一例の紹介

CO_2 削減対策メニューとして、省エネルギー対策（インバータ化、高効率モータ化、その他）とエネルギー回収対策（低空気比燃焼、タービン出力の増加、その他）、フロー・システムの改良（現状の搬入に応じた運転時間・薬剤投入量・処理方法の見直し）について取り組んでいます。

以下グラフは、4 件の提案した消費電力量、発電量増加量、CO_2 削減量を纏めたものです。





現状の機器の状態を調査し、問題ないものはそのまま利用し、更新が必要なものに対しては CO_2 削減に繋がる提案を行い、地球環境保全に貢献しています！

システム製品

1. 概　要

システム製品の環境配慮型設計は、「環境活動促進システム」改善に伴い、社員の環境活動参加を促進する取組を行っています。

2. 目標と結果、評価

2017 年度は、以下の活動項目を掲げて活動し、目標を達成しました。
今後もシステム利用継続に伴い、社員の環境活動促進に貢献したいと思います。

活動項目	目　標	結　果	判　定
環境活動促進システムの改善	エコポイント申請率 60%以上（昨年度数値を上回ること）	62%	○

3. 提案内容一例の紹介

・システム開始お知らせポスター作成
・部門別の集計表を定期的にフォロー
・社内ホームページにおける環境活動ページの定期更新
・マニュアルの更新
・システム問い合わせ対応
・システムの小改修
・電子マネー未取得者フォロー

2017 年度は、社内ホームページの環境活動ページを更新し、社内の皆さんに新しい情報を発信することをメインに取り組みました。

②社会貢献活動の取組

当社横浜地区では、地域貢献を重視した社会貢献活動を行っています。

・昼のボランティア清掃（本牧地区周辺）

月に一度、工場周辺の清掃を行っています。
年間を通した活動になります。

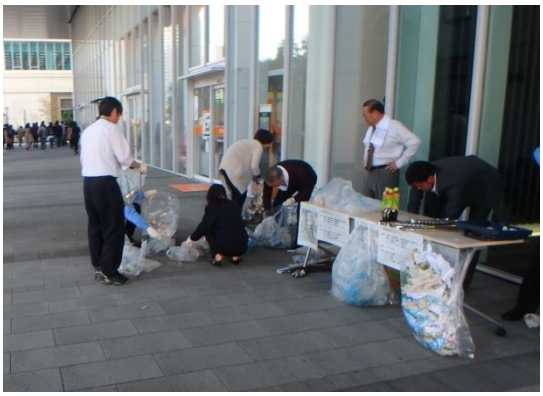
屋内だけでなく、屋外の美化にも努めることで、お客様に喜ばれる環境作りに貢献しています！

・山下公園清掃ボランティア

29 歳以下の若手達で山下公園周辺の清掃を行いました。清掃後の歩道を見るのが清々しい気分になると評判で毎年恒例の行事となっています。若手もエコ活動を盛り上げています。

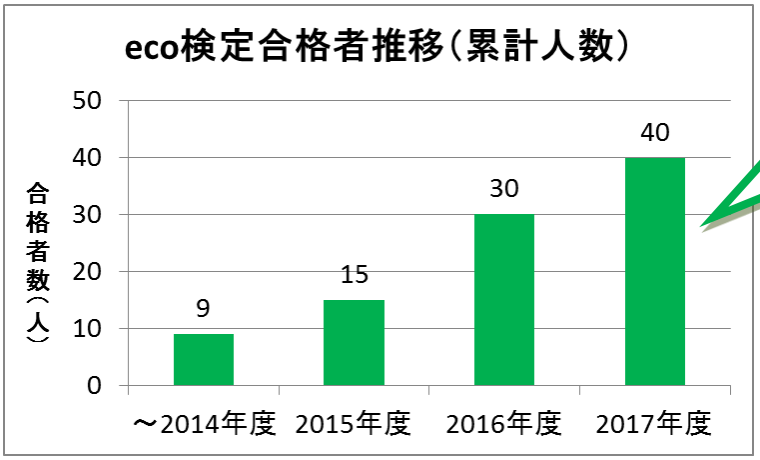
・YBA ビル(みなとみらい地区)周辺の清掃

YBA ビル周りの清掃活動に参加しました。綺麗に整備されているみなとみらいでも、草むらや歩道の端にはごみが落ちており、細かい部分まで清掃を行いました。



② 社内環境活動の取組

昨年度に比べて全体的にエコポイント申請率は増加傾向でした。eco 検定の合格取得は、年々確実に増加しています。



eco 検定は各部門の推進担当者が意欲的に取得し、更に若手社員を中心に取得の輪を拡げています！

業務に繋がる知識も活かして合格できました！

＜2017 年度 eco 検定合格者の社員＞

③ うちエコ活動の取組

社内だけではなく、家でも環境活動を取り組んでもらう為、また社員だけではなく社員の家族にもエコ活動に参加してもらう為に「うちエコ環境活動」もエコポイント申請対象となっています。

うちエコ 2017 年度　項目別申請人数ランキングベスト３		
1 位	こまめに電気を消す	246 人
2 位	水の無駄遣いをしない	227 人
3 位	エアコンの設定温度	203 人

節電・節水は昨年度同様に上位を占めており、意識定着しています。

エコキュート設置の様子

太陽光発電設置の様子

他にもエコバック持歩きや電球の LED 化も申請が多いです。

＜エコポイント活動の結果・評価＞

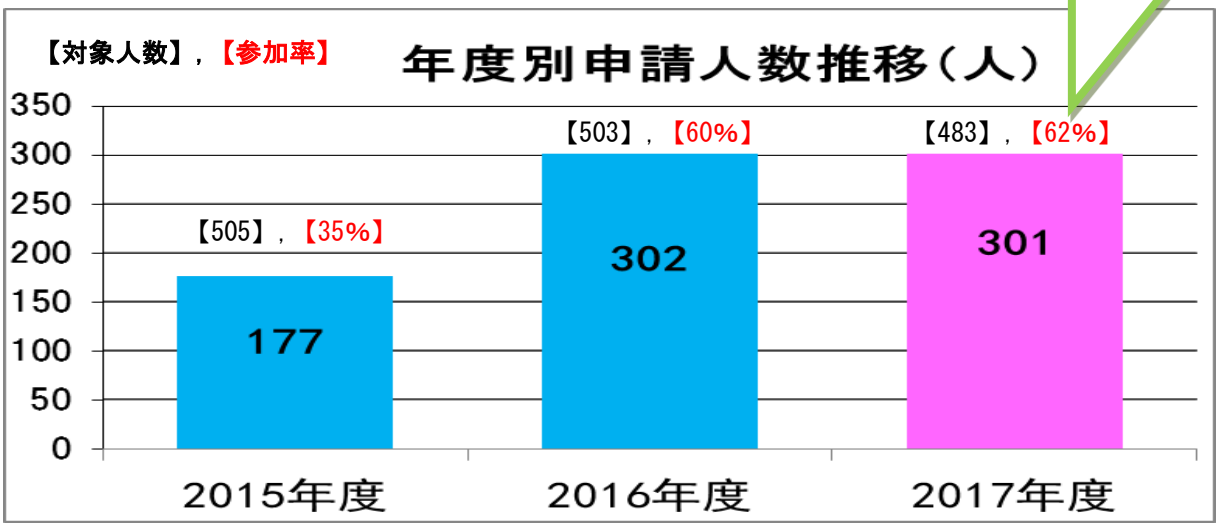
２０１５年度から２０１７年度までの社内エコポイント活動にて申請された「参加人数」、「ポイント数」の比較グラフを記載します。

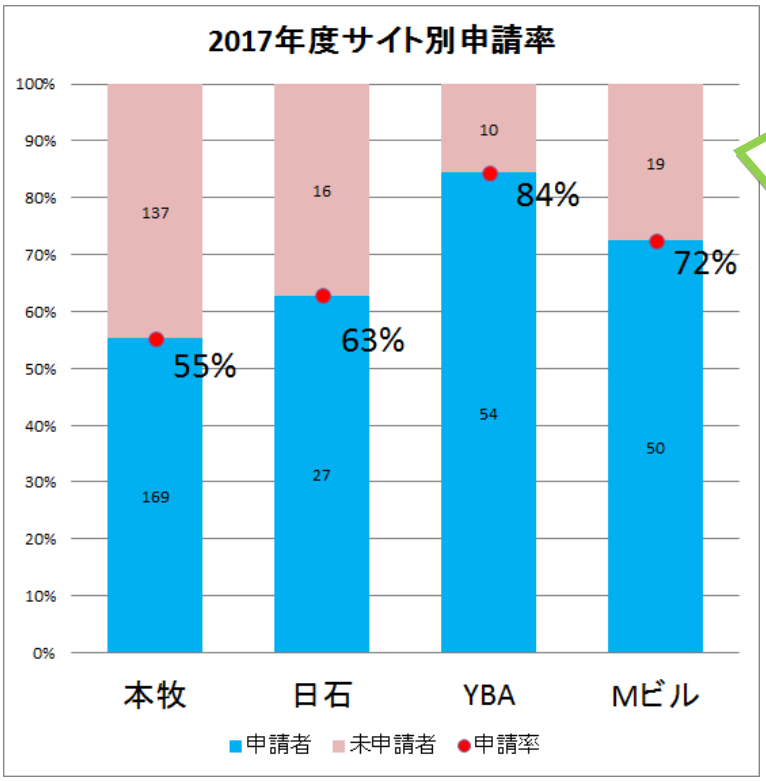
２０１７年度は、前年度のポイント総数と参加人数に偏りが発生したため、活動項目のポイントの見直しを図りました。その結果、ポイント取得のバランスが取れた取得率に改善することができました。

また、２０１７年度よりサイト別の申請率を集計しました。日石ビル、ＹＢＡ、Ｍビルは目標の 60%を超えたが、本牧のみ 60%を下回る結果でした。

2017 年度は、申請率６２％で目標達成しました！

申請対象人数：483 人(社員数 341 人＋協力社員数 142 人)





地区によって、申請率の偏りがありました。要因は、年度内に 2 回行われた職制改正により、各部門内のフォローが行き届かなかったものと考えます。次年度は、サイト毎にフォローの充実を図って行きたいと思います。

【寄付履歴】

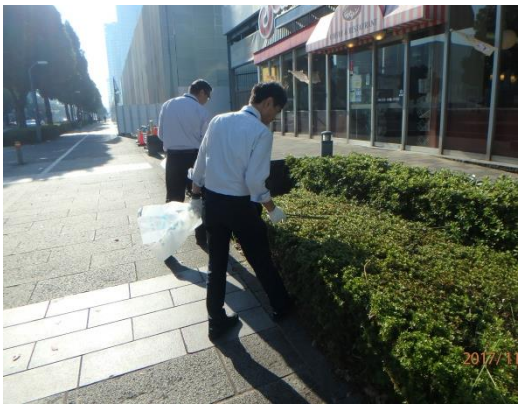
社内エコポイント制度の実施により、社内で申請されたポイントを寄付しております。2017 年度は下記の通りの実績となりました。

年　度	寄　　付　　先	寄付金額
2017 年度	①　WWF ジャパン	250,000 円
	②　神奈川県　水源環境保全・再生基金	150,000 円
	③　横浜市　環境保全基金	150,000 円

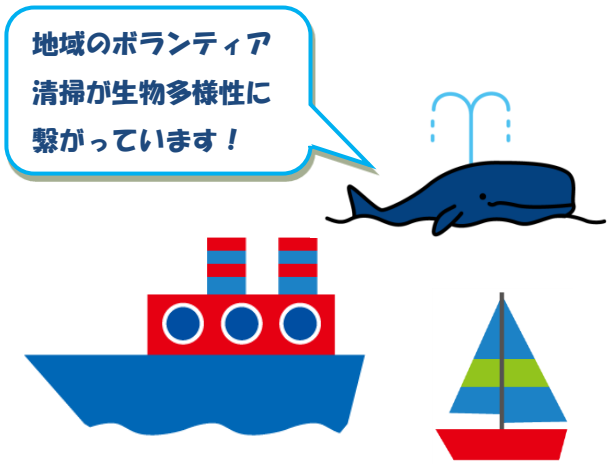
5.2 生物多様性に関する取組

当社横浜地区の場合、直接的に生物多様性に貢献する活動は無く、清掃活動、植樹活動及び二酸化炭素の排出抑制の環境保全活動をもって生物多様性に貢献できるものと考えています。その一つとして近隣の山下公園、工場・ビル周りのボランティア清掃にできるだけ多くの人が参加できるように配慮しています。

また、生物多様性を初めとした自然保護、環境保全活動を率先する WWF ジャパン（公益財団法人世界自然保護基金ジャパン）の法人会員となり、その活動に協力すると共に社員の環境活動のポイントから寄付を実施しました。



みなとみらい周辺



5.3 昨年度評価及び次年度以降の取組

＜環境経営目標及び環境経営計画＞

計　画	2016 年度（実績）	2017 年度	2018 年度	2019 年度
EA21 活動範囲	横浜事業部、総務部	横浜地区（拡大）（2018 年 2 月より）	横浜地区	全　社（拡大）
二酸化炭素排出量	56.96 [kg-CO_2/㎡]	58.6 [kg-CO_2/㎡]以下	58.6 [kg-CO_2/㎡]以下	58.6 [kg-CO_2/㎡]以下
水使用量	0.34 [㎥/㎡]	0.34 [㎥/㎡]以下	0.34 [㎥/㎡]以下	0.34 [㎥/㎡]以下
廃棄物排出量（事務所）	8.9 [ton]	8.9 [ton]以下	8.9 [ton]以下	8.9 [ton]以下
廃棄物排出量（現地）	9.69 [ton]	工事件数による変動が激しいためリサイクル対応含め工事毎に目標公示		
化学物質使用量	22.2 [kg]	使用量微少なため目標に掲げず、適正な公示をもって対応		
グリーン調達	環境対応商品の購入促進	環境対応商品の購入促進	環境対応商品の購入促進	環境対応商品の購入促進
環境配慮型設計	各製品担当部門にて目標を掲げ実施する。			
eco 検定合格人数	全体累計 30 人	全体累計 40 人以上	全体累計 50 人以上	全体累計で 60 人以上
エコポイント申請率	62 %	2019 年度までに 70%以上		

＜2017 年度の環境経営目標及び結果＞

項目	2017 年度目標	結果	判定
①　社内エコポイント活動	エコポイント申請率 目標値：60%以上	62% （301 人／483 人）	○
②　環境活動の教育推進	部門内推進担当者間の勉強会 目標値：定期開催２回／年実施	実施済	○
	全社員環境教育（ｅラーニング） 目標値：実施受講率 90%以上	99%実施 （423 人／429 人中）	○
	eco 検定の合格者促進累計合格者 目標値：　40 名以上	累計合格者： 40 人到達	○
③　二酸化炭素排出量・上水使用量、廃棄物排出量の結果については、P.11～P.13 に掲載			

＜評　価＞

評価	改善内容
①　社内エコポイントの申請率は 60%を超えていない部門もあったが、全体的な目標は達成できた。	申請が少ない部門に対しては、部門推進担当者より部門内への周知を高めてもらう。また途中経過を公開し、全体的な申請意欲を向上する。
②　eco 検定は部門別の目標値を示し、部門推進担当者が積極的に周知を行った結果、合格者増加に貢献した。	部門推進担当者向けに勉強会の実施や全社員向けにｅラーニングを行い、更なる環境知識を広める。

6.環境関連法規制の遵守状況及び違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規制等の遵守状況確認

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等は適正に遵守されています。

法規制等の名称	適用される要求事項	該当する項目	遵守評価
循環型社会形成推進基本法	設計のおけるリサイクル促進	環境配慮型設計	○
資源有効利用促進法	再生資源の利用	鉄骨類	○
廃棄物処理法	マニュフェスト保管及び届出	産業廃棄物	○
PRTR法	現地にて適正保管及び使用量の把握	特定化学物質(トルエン等)	○※1
地球温暖化対策法	温室効果ガスの排出抑制措置	電力使用量の削減	○
労働安全衛生法	安全衛生管理及び教育	現地工事	○
家電リサイクル法	使用状況の把握及び管理	エアコン・冷蔵庫	○
グリーン購入法	社内周知による購入促進	文房具・再生紙	○
建設資材リサイクル法	現地にて発生量の把握及び届出	産業廃棄物	○
有機溶剤中毒予防規制	災害事故速報の情報の共有	情報の発信	○
ダイオキシン類ばく露防止対策	特別教育の実施	現場前の社内教育	○

※1：2017 年度の PRTR 制度対象物質の使用量の状況は、冷却塔現地工事の充填体の接着剤として、エスダインを使用しトルエン含有量としては 50.6kg を使用しました。
（規定範囲内）

(2) 外部からの環境に関する苦情等の受付結果

環境に関する外部からの苦情、要望は過去３年間に亘ってありませんでした。

(3) 違反・訴訟等

環境に関する違反、訴訟は過去３年間に亘ってありませんでした。

7.代表者による全体評価と見直し結果

当社横浜地区では、エコアクションへの取り組みを始めて 12 年が経過しました。現在、「エコポイント制度」を通じて環境活動の視える化を図ってきたところですが、社員の自発的な環境意識向上が着実に広がっているものと評価します。

2017 年度活動面では、この 12 年間で培ってきた活動が「職場から地域へ、個人から家族へ」のスローガンのもと、より深堀りした活動になっています。引続き着実な活動により、環境活動の底辺拡大に尽力してください。

環境活動の結果については、エコポイントの申請率が一部の部門で未達成という状況ですが、年度中に行われた 2 回の職制改正により各部門推進担当者とそのフォロー範囲の混乱によるものと考えられますので、社内コミュニケーションの更なる闊達化によって状況は改善されていくものと期待します。

2018 年度は、2015 年に変更された ISO14001／EA21 ガイドラインの適応が中心になると思われます。今回のガイドライン改正に対応した三菱重工の「環境経営方針」にも取り上げられている通り、協力会社との連携を踏まえた三菱重工／三菱日立パワーシステムズとのサプライチェーン構築に向けたより具体的な環境活動を展開してください。

2018 年度は「横浜事業部＋総務部」の認証範囲を、社長室を含めた「横浜地区」に拡大。2019 年度に「全社」拡大が図れるように準備を進めていただき、当社を核としたサプライチェーンの構築、ひいては三菱重工を核としたサプライチェーンの構築に繋げていただきたい。

取締役副社長執行役員
郡司　登

発行日　2018 年 9 月 10 日（初版）
発行者　〒231-8715
横浜市中区錦町 12 番地
ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社
横浜地区　エコアクション 21 事務局
URL　http://www.eng.mhps.com/

ご意見・お問い合わせは下記までお願いします。
エコアクション 21 事務局
窓口：鈴木　慎悟、田籠　博
E-mail：mhpse_ecops@mhps.com